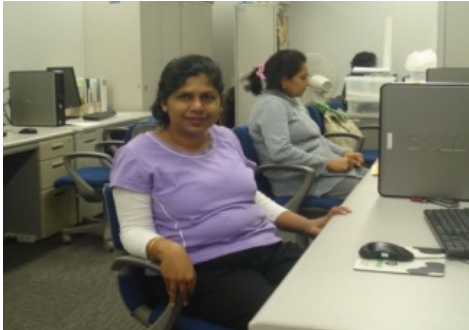


A.M.J.D.K ムダリゲ研究員（スリランカ）



はじめまして。私はスリランカの防災人権省国家災害管理局から来た A.M.J.D.K ムダリゲ（Janaki Mudalige）です。私はスリランカの中央部に位置するケガル県（Kegalle District）において災害管理調整員をしています。私は 1994 年から科学者としてキャリアがスタートして、2006 年から防災人権省国家災害管理局に着任しました。そして、現在はアジア防災センターの客員研究員として活動

を行っています。

スリランカは洪水、干ばつ、地すべりなど様々な種類の自然災害に直面しています。2003 年の洪水および地すべりの被害は大きなもので、さらに 2004 年のインド洋津波では甚大な被害が発生しました。その後、スリランカ政府は災害管理システムの構築に着手し始め、今後の自然災害における人命および財産の被害軽減に努めてきました。その結果、2005 年 5 月に防災法が制定され、翌年 2006 年 1 月には防災人権省国家災害管理局が設立されました。以降、防災人権省国家災害管理局は災害対策の主たる対応機関となり、災害対策、防災意識の向上、防災活動の推進などスリランカ全土において実施しています。アジア防災センターの客員研究員プログラムは、今後私が防災に関する調査研究を実施するために、素晴らしい経験を与えてくれると思います。このプログラムにおける情報および経験の共有は、災害に対する安全なコミュニティ形成の促進を発展させる有効な支援となります。つきましては、改めてこのような機会を与えて頂いたことと、客員研究員プログラムに選考していただいたことについて深く感謝をいたします。

日本の防災における役割は、過去様々な災害に直面し多くの経験を有していて、私自身も大きな感銘を受けています。災害対応に関する計画策定、プログラムの実行、そしてコミュニティレベルでの対策などは政府のリーダーシップに起因するものだと思います。

私がこれより日本に滞在する期間において、様々な行事に参加し、また多くの食文化に触れることができると思います。たくさん人たちと友好を深めることによって、これらは私にとって素晴らしい経験となると思います。客員研究員プログラムを通して得られる災害管理に関する知識や経験を大変心待ちにしています。また、これらの経験を今後自国の防災対策に役立てることができるよう努めたいと思います。

最後に、改めて日本政府と ADRC に感謝の意を表したいと思います。またこのような機会

を与えて頂いたスリランカ政府に対してもお礼を申し上げたいと思います。